中国系女性移民と子どものディアスポリック空間の形成をめぐる研究

関連するSDGsの国際目標

人間文化学部　地域文化学科　　准教授　　横田　祥子
研究分野　：社会人類学、宗教人類学、地域研究

台湾、インドネシアを中心として、少子化、再生産労働の国際分業化にまつわる家族、結婚、女性の移動について研究しています。

人間文化学部

■少子高齢化、再生産労働の国際分業化時代の家族と子ども

台湾、インドネシア、香港、マレーシアにて調査

人間の再生産や、性サービス・養育・介護に関わる労働を「再生産労働」といいます。近年、「再生産労働」は先進諸国と第三世界の間で分業されるようになっています。先進国・それに準ずる地域では、国際結婚で配偶者を求めたり、家事・介護に従事する労働者を海外に求めています。

台湾の漢民族は、男子を生み祖先祭祀を継続することが、家族、親族、宗教、経済と結びつく重要な理念でした。しかし、女性の社会進出が顕著で、合計特殊出生率は極めて低くなっています。つまり、社会の根本であった文化的理念はもはや実行が難しくなっています。

少子高齢化や女性の社会進出と、再生産労働の国際分業化は連動しており、台湾でも積極的な対応が見られました。しかし少子化は依然進行中です。少子化に際して、文化はどんな対応をするのか、現地調査を行っています。

■インターエスニック状況の宗教人類学的研究

インドネシア西カリマンタン州にて調査

西カリマンタン州シンカワン市は、19世紀中国広東省から鉱山労働者としたやってきた人々を祖先に持つ中国系住民が多く住む都市です。そして、*Kota Seribu Kelenteng*（幾千もの中国寺廟のある町）という異名がつけられるほど、宗教施設が多く、民間信仰の盛んな地域です。

当地の信仰は、華人・ダヤック人・ムラユ人という三大エスニックグループの緊張関係を反映しており、錯綜しています。インターエスニックに形成されている信仰を通じて、当地の世界観・宗教観並びに民族間関係を歴史的に明らかにしようとしています。

■人の移動と住空間に関する文化人類学的研究

台湾、中国、インドネシアにて調査

国際結婚家族は、関係性の変化とともに住空間をどのように改変していくのか、また観光産業の発達に伴い、伝統的民家はどのように改変させられていくのかを研究しています。

＜特許・共同研究等の状況＞
科学研究費（基盤研究A）「少子化に揺れる東アジアの父系理念－祖先祭祀実践と世界観の再創造に関する比較研究」(2018-2022年)研究分担者
科学研究費（基盤研究C）「人の観光にかかる意思決定構造のモデル化とローカル・リビングヘリテージの維持・保全」(2018-2022年)研究分担者
科学研究費（基盤研究C）「社会関係を開閉する食実践と住に関する文化人類学的研究」(2018-2022年)研究分担者